

●対冬コミ服装は『レイヤー方式』で『フレキシブル』に

冬コミの環境を端的に表すなら「冬なので当然それなりに寒いが、混雑している場所や陽当たりのいい場所などでは結構暑く感じることも多い。そして閉会して陽が落ちると急激に寒くなる」となる。

もう少し詳しく述べれば、開場前など早い時間の屋外待期は当然寒く、日中天氣が良ければ汗ばむくらいの陽気になる。冬の関東地方の氣候傾向的に晴れて非常に空気が乾燥し、朝夕はやや強めに冷たい風が吹くことが多い。雨や雪が降る可能性は低いはずだが、最近の冬コミではほぼ毎回短時間でも雨や雪に見舞われているため今回も油断は禁物だ。

そんなコミケットの環境に臨む服装に求められる機能は以下の通りだ。

- ・寒さ（特に冷たい風）を防げること
- ・足元からの冷えを防げること
- ・暑くなったり寒くなった際に脱ぎ着調節が容易なこと
- ・脱いだあとかさばらない、邪魔にならないこと
- ・汗をかいたり雨に濡れた際にも乾きやすいこと
- ・動きやすいこと

これらを満たす服装とは、こういったものだろうか？

当然ながら、寒さや風を防ぐためにはそれなりの厚さが必要だが、厚手の服はその分かさばり、防寒性能が高すぎれば時に暑くて辟易することにもなりかねない。それに前ページで述べたように、冷えは地面に近いところからやってくるため、いくら分厚い上着を着込んでも下半身の防寒がおろそかでは結局寒さに震えることになる。

かと言って肌着にシャツにセーターに上着に……と何枚も重ね着するのも調節が面倒で、脱いだら脱いだで荷物になるばかりだ。

実のところ、冬コミに適した服装はすでに一種の正解が出ている。それが漠然と枚数を重ねるのではなく、衣服をインナー／ミドル／アウター／シェルの4つの層（レイヤー）として考え、層ごとに必要な機能をしばって最低限の枚数の重ね着で最大限の効果を狙う、レイヤー方式だ。

加えて、寒さにあわせて手袋や耳当て、マフラーやネックゲイター、カイロなどの防寒グッズを併用することでトータルの保温力を向上させつつ寒くない場所や活動中は防寒グッズを外すことで温度を調整すれば、状況に応じて防寒と軽快さを両立させることができる。



●第1層【インナー】肌着／下着

レイヤー方式の要となるのが、直接肌に触れるアンダーウェアだ。最近は静電気防止加工の施された化繊製の速乾・保温インナーウェアが数多く販売されているので積極的に導入しよう。最大の防寒／吸汗効果を得るためには必ず上下セットで着用すること。片方だけでは文字通り効果半減だ。さらにその下に着用する下着も、できるだけ薄手で綿以外の素材のものが望ましい。

●第2層【ミドル】シャツ系

ここは自分の寒さの感じ方に合わせて1～3枚の服で厚みや重ね方を調整しよう。ただしシャツ類も綿100%の素材のものはせっかく肌着が吸い上げた汗を吸って溜め込んでしまい、冷えの原因となるので避けたい。

●第3層【アウター】セーター・トレーナー・カーディガン系

シャツの上、上着の下、薄手の防寒具。極薄ダウンなどの保温具もこのレイヤーとして考える。活動したり、空調の効いた屋内に入って暑さを感じたら、この層の服を脱ぐことで調整する。

●第4層【シェル】上着

防寒機能よりも冷たい風を防ぐことと動きやすいことを重視して選ぶ。もしもの際には雨も防げる高撥水素材などが望ましい。